「COVID診療下での気管支鏡検査および生理機能検査についての調査」

2020年2月のダイアモンドプリンセス号から始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）がパンデミックとなり、サルコイドーシスの診療、診断へ影響を及ぼしています。特に飛沫感染が懸念される気管支鏡検査や呼吸機能検査は施行に考慮が必要です。

2020年度第40回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会（寺﨑文生会長）において緊急特別企画「肺サルコイドーシス診療へのCOVID-19の影響」のために、本学会会員に無記名でアンケート調査を行い，「診断へのCOVID-19の影響；呼吸機能，気管支鏡等」（演者；宮崎泰成先生）で報告いたしました．結果を公開します。

各施設でさまざまな検討をして運用していることがわかると思います。日本呼吸器内視鏡学会、日本呼吸器学会、日本肺癌学会、日本臨床検査医学会の提言も参考に日常診療にお役立ていただければ幸いです。

2020年11月10日

日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会　山口哲生